

南三陸

平成21年

No. 41

2月号

2009年2月1日発行



箏の美しい音色を学ぶ

1月20日(火)、戸倉中学校で「箏」を使った授業が行われ、奏法の違いによる音色の良さなどを学びました。

箏の授業は、19日(月)から21日(水)までの3日間で全校生徒が学び、講師は、入谷の西城紀子さんが務めました。この日は、2年生が「さくら」と「荒城の月」の指導を受け、教室には美しい箏の音色が響きわたっていました。

※箏は、奈良時代に中国から伝来した楽器のことで、一般的には「琴」という漢字が用いられています。しかし、「箏」と「琴」はまったく別の楽器です。箏は13弦で、柱と呼ばれる可動式の支柱で音程を調節します。一方、琴は7弦で、柱のない楽器です。